

東京慈恵会医科大学 医学部看護学科保護者会 第4回総会 記録

日時：2022年6月25日（土）13時30分～14時00分

場所：看護学科校舎1階 大講堂

1. 開会

副会長より、出席者54名、委任状117名により、会則の第8条4項の条件を満たし、総会が成立するとの報告および開会の宣言があった。

2. 保護者会役員選任、監事選出について

会長より、資料1をもとに2022年度の役員候補者の紹介があった。また副会長が次年度の会長を務めるとの説明があり、承認された。続いて監事の紹介があった。

3. 会長所信表明

「看護学科保護者会は、『できることからコツコツと』をモットーに、設立から3年間、保護者と大学のパイプ役として様々な活動を行ってきました。学生への支援の他、新型コロナウイルス感染症が流行した2年間では、大学からの情報をすばやく保護者へ伝えるための連絡網構築や、附属病院への衛生用品や栄養補助食品などの物資支援も行ってきました。本年度は、コロナ禍で臨地実習を十分に実施できないまま就職し、不安を抱えている新人看護師への支援を計画しております。今後も時機に合った活動を進めていきたいと思っておりますので、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。」

4. 2021年度保護者会活動報告と収支報告

会長より、資料2をもとに2021年度の活動と収支について報告があった。

- ・1年生に入学祝として電子体温計を贈呈した。
- ・2年生に、看護への思いを新たにする式の記念品としてナースウォッチを贈呈した。
- ・3年生の看護師国家試験低学年模試受験料を援助した。
- ・4年生の卒業記念品としてワークのアクセサリボックスを贈呈した。
- ・4年生保護者会賞受賞者に副賞として腕時計を贈呈した。
- ・大学行事である学祖墓参時に保護者会より供花を行った。
- ・本院と第三病院の看護部へ、衛生用品とメッセージカードを進呈した。

5. 2022年度保護者会活動計画と予算について

会長より、資料3-1、3-2をもとに2022年度の活動計画と予算案について説明があり、案の通り承認された。

6. その他

1) コロナ禍における附属病院への支援について

会長より、本年度入職した新人看護師は、在学中に十分な実習をできないまま入職しており、大きな不安を抱えている。現在、大学ではこうした看護師に対して移行期支援を行っているとのこと、保護者会としても何か支援できないかと考えている。9月頃に支援品の進呈を計画しており、具体的に決まったら連絡網でご報告するとの説明があった。

2) 保護者会懇親会について

副会長より、本年度はファブール祭開催に合わせて10月29日（土）に懇親会を開催予定である。詳細は決まり次第連絡網でお知らせするとの案内があった。

3) 1年生役員の再募集について

会長より、各学年の役員は2~3名だが、本年度の1年生理事はまだ1名しかいないため、役員として一緒に活動してくれる方を再募集する。子ども達のために何かしてみたいという方からの手助けをお願いしたい。連絡先などの詳細は後日連絡網でお知らせするので、ぜひご検討くださいとの要望があった。

4) 監事（同窓会看護学科支部副支部長）より挨拶

「同窓会看護学科支部副支部長として、保護者会設立時より監事を担当しています。今後もよろしくお願ひします。私自身は第三病院で看護師として勤務しており、コロナ禍の大変な時期に保護者会から物資やメッセージをいただきことに深く感謝しています。同窓会看護学科支部は、卒業生 1000 人を超え、医学科・看護学科を卒業した仲間の絆を深め、支え合っていくために活動を行っています。同窓会へのご支援も、引き続きお願ひします。」

7. 看護学科長 挨拶

「保護者の皆様には、日頃から看護学科の教育にご支援いただき、感謝申し上げます。看護学科保護者会には、設立翌年からのコロナ禍において、本日にいたるまで様々なご支援をいただいたこと、改めて感謝申し上げます。学生への支援はもとより、附属病院への支援とメッセージについては、看護部長より、コロナ禍の大変な状況下で大きな力になったと聞いています。さて、私からは看護学科保護者会の設立の経緯について少しお話ししたいと思います。医学科には古くから保護者会があり、大学と連携して学業面の支援を行ってきました。一方の看護学科では、設立当初は学生数が 30 名と少なかったこともあり、保護者会がなく経過してきました。しかし定員 60 名に増員したころから、学生生活において想定していないトラブルが起こるようになってきました。都度、教員が解決に向け対応してきましたが、保護者の皆様にも状況をタイムリーにお伝えし、各家庭の状況に合わせた支援をできるようにするためにも、保護者会が必要との考えに至りました。大学で保護者会が必要かと疑問に思うこともあると思いますが、看護学科は卒業時に国家資格を取得するために、他の学部よりもカリキュラムが過密です。また実習の比重が大きく、実習現場ではステューデントナースとしての責任を厳しく問われ、課題に費やす時間も多く必要です。医療の高度化・複雑化の中で、単なる知識ではなく、倫理観・人間性・メンバーシップ・リーダーシップ、問題解決能力を習得していくことは容易ではありません。さらに医学科学生とのカリキュラムや年限、立場、経済状況の違いから直面する問題もあり、時に学生 1 人では乗り越えられない挫折を経験することがあります。こうした学生を支援するためには、教員だけでなく保護者の皆様の協力も必要不可欠です。こうした経緯から、2018 年に保護者会設立のお声がけをし、当時コアメンバーとなってくださった保護者を中心として設立準備を進め、2019 年 4 月から活動を開始していただきました。本学の教育をさらによいものとしていくためにも、保護者会を通して忌憚ない意見をいただきたいと考えておりますので、引き続き看護学科の教育へのご支援をよろしくお願ひします。」

8. 閉会

副会長より、総会への参加に対する感謝とともに、閉会の挨拶があった。

以上